

こうふ町 議会だより

きびしい寒さの向こうに
春が待つ

新春の挨拶2P
所管事務調査4～7P
事務組合議会8P
議員研修9P
学園議会10P
一般質問11P～14P
住民懇談会ほか15P

議会のことをわかりやすくお伝えします

新春に向けて



議長 阿部 朝親

新年あけましておめでとうございます。
町民の皆様にとりまして、
良き新年をお迎えのことと
お慶び申し上げます。

おり、昨年には米が高騰し備蓄米の放出などがあり、今後の米の価格が非常に不透明な状況であり、町内の米農家にとっても今後の米の栽培・米価については最大の関心事となっているのではないかと思います。

また、米価が上昇したからと言ってすぐに耕作面積が増やせる状況ではなく、現状維持をどうするのか議会としても個人、集落、行政と一体となってこれを守る手段を考えていきます。

そして昨年の議会議員選挙から議員定数が1名減の9名となりましたが、皆様のご意見を行政に反映されるよう日々議員も活動しています。町民の皆様も行政に対するご意見ご希望がありましたら、議員に声をかけて頂きたいと思ひます。

また、鳥取県選出の石破総理から高市総理へと政権が代わり、積極財政を方針の基本にした政策を展開しています。

ガソリン税の暫定税率廃止、物価高対策等私たちの生活に直結した対策がなされておりますが、それに伴う財源がどうなるか心配される所です。

新春を迎え、今後とも町民の皆様の安心安全な生活を確保するために、議会として皆様のご理解ご指導を頂きながら、干支である馬の様に飛躍できるよう取り組んでまいります。
末筆ですが皆様のご健勝とご多幸をお祈りし、ごあいさついたします。

令和8年 新春



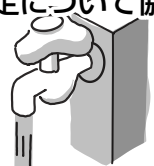
2026

注 町政の
目 ポイント

本年は供用開始や進行中の公共施設が複数、そして風力発電事業者への対応や水道料金改定など、町政に関する注目ポイントが多くあります。

水道料金改定

料金改定について協議開始



江尾駐在所

令和8年1月移転



江府消防署

令和7年12月移転



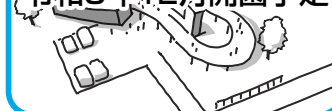
鳥取西部風力発電事業

議会は当事業の中止を求めています



コミュニティパーク事業

令和9年12月開園予定



旧役場跡地造成・分譲事業

令和9年4月分譲地募集開始予定



一般会計予算総額 52億9,358万円 (補正額7,103万円増額)

12月定例会は12月9日に召集され、12月15日までの5日間開催されました。

初日には一般会計補正予算（第6号、補正額5,371万円増額）など13議案が上程され、最終日には追加議案として一般会計補正予算（第7号、補正額1,732万円増額）などの上程があり合わせて15議案が原案通り可決されました。

【一般会計補正第6号 歳出増減の主な内容】

ふるさと納税事務費全般	7,850万円 (3億5,000万円)
地域おこし協力隊採用実績による調整	▲2,985万円 (6,468万円)
地方公共団体情報システム標準化に伴う機器（プリンタ）更新	152万円 (152万円)
生成AI発展事業費（第二世代交付金採択分）	700万円 (700万円)
コミュニティパーク土地造成関係	▲1,062万円 (1億2,685万円)
被保護者数増による扶助費（主に医療費）	1,534万円 (3,965万円)
地籍調査委託料	▲3,454万円 (4,209万円)
ナラ枯れ駆除防止委託料	▲104万円 (370万円)
神奈川サロン駐車場整備	73万円 (946万円)
災害防除工事（江尾貝田三ノ沢線）	300万円 (9,500万円)
簡易水道事業補助（消火栓整備1件）	97万円 (292万円)
まなびや縁側江府拠点委託料	▲226万円 (417万円)

()内は補正後の金額

総務経済常任委員会

「総務経済常任委員会」は、合同会社みちくさ、株式会社奥大山ドリーム、安藤ハザマ・大豊建設・YAHATA特定建設工事共同企業体の3カ所の事務調査を行いました。

調査内容（現状及び考察） 合同会社みちくさ

●売上について
令和6年度の利益は192万3926円、売上2631万1603円の内、「もち」の売り上げが330万円で、会員数が減少するなかで、加工品である「もち」の売り上げが増加している。

●課題について

①町内に「もち米」専用の乾燥機、精米機、施設等がないため個人対応または他町の施設



設を利用しており、これらが「もち米」生産者の減少に影響している。専用施設が必要である。

②会員数が高齢化等により減少している。それに伴い商品である野菜も減少している。

●課題に対する対応策について

①「もち米」専用施設について、本町五丁目を使用していいない農業倉庫があり「もち米」専用施設として利用できないか確認すべき。

②商品である野菜の廃棄はほとんどない状況で、在庫があれば売れる。そのため会員と商品の増加が望まれている。「みちくさ」へ出荷することのメリット（価格保証等出荷額への補助等）を制度化することを検討すべき。

考察

合同会社みちくさとなり、1年が経過した。会員減に伴う商品の減少に対しては、加工品である「もち」「漬物」「おやき」といったもので補っている。しかしそれぞれに課題があり対応策を検討されているが十分ではない。「合同会社みちくさ」を今以

上に発展させるために、会社経営について研修をかねて研鑽されたい。

株式会社奥大山ドリーム

●第11期ビジョンについて

第11期のビジョンとして
①新規オリジナル商品の開発
②イベントによる賑わいの創生、集客の強化
③店舗外での販売力の強化を挙げている。

売上目標1億4150万円に対し1億4443万2千円と目標額を達成しておりコロナ直前期2018年7月より2019年8月期との比では、売上9179万6千円↓1億4443万2千円57%増、客数7万3929人↓8万8945人20%増、客単価1340円↓1462円31%増、経常利益324万円↓552万4千円70%増とすべての項目において上昇しておりコロナ期の影響は無くなったと言える。

お食事処「なないろ榎」（前年比）について
売上高2428万2千円↓2740万6千円11・2%



増、客数1万4284人↓1万4875人4.1%増 客単価1871円↓2024円8.1%増と昨季と比べると売り上げを伸ばしている。

①新規オリジナル商品の開発
「ふるさと味噌奥大山」「奥大山米粉のラングドシャ」「奥大山米粉のクッキー」は奥大山ブランド認証取得済みである。
②イベントによる賑わいの創生、集客の強化
「10周年祭」パレット奥大山との共催イベントを開催し、前年の9年祭開催比77%増。

所管事務調査報告書

調査日 令和7年12月1日

イベント外にも各種出店やキッチンカー、試食販売会で賑わいを創出されている。
③店舗外での販売力の強化
オンラインショップでの販売商品を拡充、奥大山商品に加え、やくもグッズ、蒜山はちみつ、満洲味ラーメン等特色ある商品の販売を行っている。
※駅長より
「商品にお客さんがついている。特にしいたけ醤油はリピーターが多い。今後もいい商品を作っていきたい。」

●要望について

①しいたけ醤油の原料の大豆が、乾燥機のロットの関係で鳥取西部に一元化され江府町内産大豆と言えなくなる。専用の乾燥機が必要。
②駐車場が狭い、入り口で渋滞を招きやすい。駐車場を拡大してほしい。
③イベント時や繁盛期に、度々駐車場に入れない自家用車が国道に溢れ、渋滞を招いている。その対応策として警備員を配置しているが、警備員の費用についての補助を検討願いたい。

考察

コロナ期の影響がなくなり全体的に売り上げが伸びてきている。またトイレの掃除が行き届いており利用者からの評判も良い。現状にとどまらず新商品開発にも力を入れている。本町観光の主要機関として今後も多方面での活動を、今以上に活発化されたい。

安藤ハザマ・大豊建設・YAHATA特定建設工事共同企業体

●工事内容について

工事名 国道181号（江府道路）トンネル工事（補助改良）
国道181号（江府道路）トンネル工事（2工区）（補助改良）
発注者 鳥取県
受注者 安藤ハザマ・大豊建設・YAHATA特定建設工事共同企業体



工期 1工区 2021年10月15日〜2025年10月30日
2工区 2025年3月1日〜2027年1月4日
工事価格 1工区 当初56億1050万円
第3回変更 57億2726万円
2工区 22億8990万円
合計 80億1716万円
工事内容 トンネル掘削
2609m
トンネル掘削開始 2022年4月12日
貫通 2025年7月30日

考察

貫通式 2025年10月15日
●工事による問題点について
○想定より軟弱な地山
大谷リニアメント（※リニアメントII地表に現れた直線的な地形）の影響と考えられる。
○水が多い
1時間で140トンの水がトンネル内で湧出している、その処理のため薬品を使用している。水質の調整後日野川へ放水している。

町民生活に影響する可能性のあるトンネル内の湧き水については、適正に処理されている。また、周辺集落の地下水への影響調査も同時に行われている。町民生活に影響が無いよう今後も適正な工事の施工をお願いしたい。
従業員は30名のうち地元雇用が事務員1名。宿舍が小江尾工業団地内にあり社員食堂も併設されている。地元食材の利用、各店舗での買い物、イベント参加等、声掛けはしている。関係人口増加のため今後も努力されたい。

教育民生常任委員会

この度「教育民生常任委員会」は、保育園、江府学園、老人施設を調査しました。

子供の国保育園

- ①今年度の保育数状況と来年度以降の保育数の予想状況
・令和7年12月1日現在、園児数73名で内訳は、年長児16名、年中児14名、年少児13名、未満児30名となっている。令和8年4月1日入園児約60名で0歳児8名が入園予定であるが、園児数は減少傾向にある。
- ②保育士の充足状況と正職員・会計年度任用職員数の内訳
・正職員7名、会計年度任用職員9名、パート2名で構成している。現在、職員数は満たしている。
- ③特色取り組みなど、保育状況について
・子どもが主体的に遊べる保育環境を整え、個々が十分に遊びを経験することで、次のステップに挑戦する学びにつながる環境保育。3歳、4歳、5歳児間での友だちとの関わりを通して、社会性や協調性、思いやりの気持ちを育む異年齢保育。



・食育年間計画活動に基づき、菜園活動やクッキングなどを通して、食の大切さを知り心身共に健康の基礎を

- ・つちかう食育活動。
・園外交流を重んじて、年間計画を立て、町内の高齢者や町外の園との交流活動。
- ④新しい保育園へのハード・ソフト面における提案について
・登園時等に危なくないよう、車寄せ、駐車場の広さを十分確保をしてほしい。
- ・ソフト面については、不安ではないが、出来上がってみたいと分からないので、それから対応していく。
- ⑤現在の保育園への不満点、要望点について
・車寄せ、駐車場及び久連橋が狭く登園時の不安と園庭に車5台を駐車している。
- ・休憩、ミーティングや保育などを一つの部屋で行っている。
- ⑥コミュニティパーク内の保育園への不安点、要望点について
・保護者や保育士から、新しい保育園がよくわからないとの声があった。玄関でプロモーションを流し、プロジェクトチームに説明を受けて、イメージがわいたとの声があったので、町内外に對してもアピールをしていただきたい。
- ・新しい保育園でプラスされたものは、ここ数年でノウハウを話し合い、日々どうしたらいいかを考えている。更に、良かったものを新しい保育園に持っていく。

- ⑦その他、意見要望等について
・新しいコミュニティスペースを利用し、作業車などを体験していくような、色々なことを行なっていきたいので、会社、町内の方に協力をしていただきたい。

考察

駐車場が狭いために、園庭へ職員の車を、5台駐車している状況は、園児への安心・安全が確保されていない。新しい保育園で、色々なことを取り入れた保育をするために、職員が日々話し合いを行っている。新しい保育園が職員に対して良い刺激となっていて、より良い保育を目指しているといえる。

奥大山江府学園

- ①今年度、児童生徒の状況と今後の予想状況について
・令和7年度の児童生徒数は、ブナの森校舎66名、日野川校舎55名の121名、内特別支援学級5名。令和8年度125名、令和9年度122名、令和10年度117名、今後は、減少することが予想される。
- ②不登校など児童生徒の生活状況について
・不登校の児童生徒は複数名

- ・いる。児童生徒によつては、週2、3日登校している。不登校の児童生徒には、プリントを渡して自宅で勉強している。コロナ禍以降、7日以上休む児童生徒が増加しているの注視していきたい。
- ③特色のある取組など、学習状況について
・故郷を大切にした故郷の魅力を発信する学習
1・2年生「生活」、3年生「伝統文化」、4年生「環境」、5年生「福祉」、6年生「わが町」、7年生「キャリア意識・仕事・町内の職業」、8年生「職場体験」、9年生「江府町をよりよくするアイデアを考え学園議会を通して学習」をテーマに行っています。
- ④今年度の職員の充足状況について
・職員数43名、内学習支援員が5名。開校以降職員の数が減少し苦しい状況である。併せて、支援を必要とする児童も増えているので職員配置の考慮をお願いしたい。
- ⑤現体制のメリット・デメリットと思われる事項について
・メリット 小学校・中学校と別れている時は、連携が困難である。義務教育学校では連携が強化できる。
- ・デメリット 校舎が分かれているので、全校で行事をする時、話をする場合、1・2

所管事務調査報告書

調査日 令和7年12月4日・5日

- ・年生に対する内容と、8・9年生に対する内容を変えなければいけないことと、バスの調整、移動に時間がかかる。
- ⑥新体制移行後の不満点、要望点について
・義務教育学校になって4年目となりました。県費の教師の異動により義務教育学校の経験のない教師が入ってくるので、本校の特色や取り組みを理解するのに時間がかかる。
- ・校舎が分かれているので、全校行事等の移動のためバスを利用しているが、バス代が高騰しているため、移動用のバスの借上げ料の予算を多くしてほしい。活動が出来なくなるので理解してほしい。
- ⑦教職員のカリキュラム・オーバーロードに対する対応について
・対応として、体育祭・文化祭を1日から半日に変更し、行事は、月曜日から金曜日の平日開催にしました。体育祭は、土曜日の半日開催にしました。教科担任制を導入し各学年ブロックにまたがった教育を行い、個人の持ち時間が多くなりすぎないようにしている。
- ・教職員の休暇、産休の代替要



- ・員を県教育委員会に要望しているが、なかなかないので、ギリギリのところをやっている。
- ⑧その他
・オーバードロードの解消のために、学校ですること学校ですることでないことを、分けて行うようになるので、交通安全の朝の立ち番などは、勤務時間内で帰ることが難しいので、立ち番などが出来なくなったときには、理解してほしい。

考察

故郷を大切にしたい、故郷の魅力を発信する学習を学年ごとにテーマを決めて行う取組みや、様々なかたちでの交流を推進（学校間、校舎間、学校間、国際間）など、多くの取り組みを行って、充実した学園の内容となっているが、反面、不登校の児童生徒が増えている状況なので、ケアをしっかりと行い不登校者が増えないように要望する。

尚仁福祉会・介護老人施設あやめ

- ①令和6年度と令和5年度の利用者状況について
・令和6年度の年間入所数85名で、令和5年度の81名からは若干増えたが、稼働率は、87・2

- ・%で目標の90%を、達成することが出来なかった。通所サービスについては、稼働率82・6%で目標の80%は達成出来ましたが、1日の平均利用者は24・7人で、目標の25人は達成できていませんでした。
- ②今後想定される利用状況について
・入所利用稼働率90%、通所の1日平均は25名以上、稼働率80%を目指していく。安定した稼働率にするために、空床状態を少なくして新規入所へ繋いでいく。
- ③職員体制と今後の展望と要望について
・職員体制は、入所部門に常勤介護職員23名、非常勤介護職員3名、特定技能外国人人材2名（中国）、技能実習外国人材3名（インドネシア）、の合計31名。通所部門は、常勤介護職員7名、非常勤介護職員1名の合計8名配置している。全国的に人材は、不足している採用が困難になっているが、外国人材を活用して維持していく。併せて、職員の募集を継続的に行っていく。
- ④施設運営における経営状況と将来展望、要望について
・売上高は、毎年上がっているが、将来、職員の不足が解消できなければ、事業の縮小、少ない職員でまかなえる事業に変更していかなければいけない。

考察

介護人材不足は、全国的に起きていて、人材確保は、非常に困難となっているため、外国人材の活用により福祉の維持に努めている。また、WIFI環境の整備を行い、ICT機器の導入による業務改善、器具導入での業務負担軽減を図り職員の負担を軽減するとともに、入居者に安全性の高いサービスを提供している介護人材不足による事業の縮小にならないように、支援が必要と思われる。



日野病院組合議会

令和7年度11月25日、日野町役場において定例会が開催されました。主な日程は令和7年度病院事業会計補正予算でそれぞれ可決されました。

- 議案第21号：令和7年度日野病院組合病院事業会計補正予算（第2号）
 - 補正概要 ・収益的支出補正 15,064千円増 計 1,996,784千円
 - 詳細 給与費 11,068千円（パートタイム会計任用職員人件費）
 - 食材費 500千円（医療消耗品費）
 - 経費 3,496千円（修繕費他）
- 議案第22号：令和7年度日野病院組合在宅介護支援事業会計補正予算（第1号）
 - 補正概要 ・在宅介護支援事業費 53千円増 計 92,534千円
 - ・資本的収入 1,300千円増 計 1,300千円
 - 内訳 企業債 1,300千円
 - ・資本的支出 1,308千円増 計 1,358千円
 - 内訳 建設改良費 1,380千円（介護保険システムクライアント）
- その他：令和8年度病院長人事 現孝田病院長定年延長引続き院長承諾
- ・職員採用 令和8年4月1日採用 看護師4名 放射線技師1名
- ・整形外科医 奥野医師着任

日野町江府町日南町衛生施設組合議会

令和7年度11月10日、江府町役場において定例会が開催され、組合会計補正予算が上程され可決されました。

- 議案第11号：令和7年度日野町江府町日南町衛生施設組合会計補正予算（第3号）
 - 既定の総額に、歳入歳出それぞれ8,547千円を減額、予算総額を209,136千円とする。
 - 歳入は分担金及び負担金を8,547千円減額するもので、繰越金増額分の減額と費用負担金の増額を調整するもの。
 - 歳出は、ごみ処理費・修繕料2,762千円の増額と、予備費11,309千円の減額。
 - 修繕料の増額は平成10年供用開始から使用している設備に修繕が必要となり、資金不足を補うもの。
 - 予備費の減額は、歳入歳出の差額を調整するもの。
 - 江府町の負担金減額 し尿処理分 ごみ処理分 合計 3,040千円

鳥取県西部広域行政管理組合議会

令和7年11月27日、米子市淀江支所議場において定例会が開催され、各議案が承認されました。

- 議案第18号：鳥取県西部広域行政管理組合消防本部及び消防署の設置に関する条例の一部を改正する条例の制定について
 - ・改正概要 江府消防署の移転に関するもの
- 議案第19号：鳥取県西部広域行政管理組合営火葬場条例及び鳥取県西部広域行政管理組合リサイクルプラザ条例の一部を改正する条例の制定について
 - ・火葬場使用料の改定 圏域内住居者（大人）12千円→18千円
 - ・不燃物処理手数料の改定 10kg 当たり R8.4.1～R9.3.31 178円→280円
 - R9.4.1～R10.3.31 280円→380円
 - R10.4.1～ 380円→480円
- 議案第20号：鳥取県西部広域行政管理組合火葬場条例の一部を改正する条例の制定について
 - 収骨をしない旨の申し出があった場合の焼骨の処分に関する規定の整備 他
- 議案第21号：鳥取県西部広域行政管理組合営火葬場の指定管理者の指定について
 - 指定管理者に指定するもの 東垂・宮本グループ
 - 指定期間 令和8年4月1日～令和13年3月31日
- 議案第22号：鳥取県西部広域行政管理組合一般会計補正予算（補正第一回）
 - 補正額 405万5千円増 総額 74億4757万2千円
 - 補正内容 最終処分場建設候補地の測量、地質調査業務にかかる経費
- 議案第23号：鳥取県西部広域行政管理組合一般会計の決算認定について
 - 決算内容 歳入総額 5,177,517千円
 - 歳出総額 5,111,467千円 残金は翌年に繰越し

鳥取県町村議会議員
研修会開催

令和7年11月28日に湯梨浜町のハワイアロハホールで鳥取県町村議会議員研修会が開催されました。今年は、拓殖大学の川村和徳教授と地方公共団体政策支援機構理事の渡辺大樹氏が次の演題で講演されました。二つの演題とも現在問題とされている内容で、興味深く研修を行いました。主な研修内容の要点は、次のとおりです。

1. 「地方議員のなり手不足の背景を考える」ー議員報酬・議員定数も意識してー

＊議会に対する信頼形成が必要。休日議会、インターネット中継などの実施。
＊政策に強い議会。御用聞きだけでなく、執行部に直接訴える時代である。
＊時代が変化しているから昔の感覚では、なり手は見つからない、新しい挑戦、新しい発想をする必要があるのでは。
＊定数をどう考えるか。議決する組織としては、多様性を尊重し、議論する



ハワイアロハホールにて

組織としては、適切な規模がある（6から10）
＊報酬をめぐる議論では、その質と量に連携される。県議、市議は生活給的な発想、町村議はそうならない。

2. 住民が求める地方議会・期待される地方議会とは何か。

＊地域の課題とは何か。町の現状はどうか。そこから政策テーマ・質問すべき。課題が見えてくる。全国的にどこでも人口減少している。
＊決して諦めず、冷笑的にならず、批判者にならず、現状と課題を捉えて答えを見つけていく。政策を実現する先にビジョンの達成がある。

日野郡町議会議員
研修会開催

＊議会が行うべきは、政策提言であり事業ではない。
＊必要とされている議会の役割は、今までは執行部から依頼された審査・議決だけで受け身。議会・委員会が自ら課題を設定して能動的に課題提議・政策提案・公聴を行っている。住民起点になっているか。政策レベルになっているか。

令和8年1月23日、江府町役場で日野郡町議会議員研修会が開催されました。当日は、江府町在住の天籟株式会

社代表桐村里紗講師が「大山流域から始める人と自然が調和する世界」と題して講演されました。その主な内容は、まず、大規模農業はその生産方法から農地を崩壊させている。そのため農地が廃れてきている。これからは、生物多様性の時代を大事にし、食料安全保障の基盤づくり、そして安全保障の基盤づくり、そして放置された田畑を再生生産可能な価値に転嫁していくことが大事。さらに、金融資本が



江府町役場にて

陳情の審査結果

受理番号及び受理年月日	件名	提出者	付託先	審議結果
陳情第8号 令和7年 8月22日	保育所等に対する社会福祉施設職員等退職手当共済制度の公費助成の継続を求める意見書の提出を求める陳情書	鳥取県東伯郡湯梨浜町泊711 鳥取の保育を考える会 会長 石井由加利	教育民生常任委員会	採択
陳情第9号 令和7年 8月22日	保育士配置基準の引き上げの早期完全実施とさらなる改善を求める意見書提出を求める陳情書	鳥取県東伯郡湯梨浜町泊711 鳥取の保育を考える会 会長 石井由加利	教育民生常任委員会	採択

学 園 会 議 会

1 班質問者

加藤 亜美香 議員
ウォーターグラマー

質問 私たちは江府町の水は当たり前だと思っていたがそうではないことに気づいた。そこで海外留学して現地の水事情と比較することによって、町の水の良さを積極的に世界に発信してはどうか。
※この発信者を「ウォーターグラマー」と呼ぶつもり。

町長答弁

外から客観的に考えるのは良いこと。水質の違いの背景などさらに掘り下げると良い。町の海外研修事業で実際に取り組んでみては。



2 班質問者

末次 碧生 議員
セブンティーン
スプラッシュ

質問 江府町が鳥取県民にも知られていないことに驚いた。また県外では鳥取といえば『砂』のイメージが強い。これを江府町は『水』に変えたい。若者に楽しみながら町に興味を持ってもらえるよう、十七夜で高校生を対象に十七色の水風船をぶつけ合うイベントを開催してはどうか。

町長答弁

発想が素晴らしい。夏に水を活用して遊ぶのはぴったり合っている。とは言え水は貴重な財産なので、環境に配慮した仕組みを加えれば更に良くなる。ぜひ実行委員会へ提案を。



3 班質問者

稲田 喜一 議員
天然水キャラクター化計画

質問 熊本の天然水との味の違いを感じ、これを多くの人に知ってもらいたいと思った。どれも同じと思われがちな味の違いを伝えるため、天然水をキャラクター化してはどうか。性格や特徴を設定することで、若い世代の関心や人気を集めたい。

町長答弁

おそらく誰も考えたことの無いアイデアで斬新で面白い。ぜひ進めてみてほしい。江府町地域振興（株）と連携して検討するのも面白いのではないかな。



学園議会を聞いて

今回は3グループとも『水』がテーマでした。教育・交流・広報など切り口にはそれぞれの特徴があり、いずれも明るく前向きな提案でした。

その発想の根元にある、私達はなぜそう思うのかというグループの観点や、対象者の要望をどう捉えたかなど、その背景をさらに深く聞いてみたいと感じる内容でした。

提案内容だけでなく、大勢の大人に囲まれた中でも質問を重ね、寸劇を交えながら堂々と発表される皆様の姿に力を頂きました。今後のますますのご活躍を期待しています。

令和7年10月22日江府町役場議場にて、奥大山江府学園9年生9名が3グループに分かれ町執行部へアイデアを提案し、町長が答弁を行いました。

町政を問う!! 4名の議員が一般質問

● 空き家の活用について



川端 登志一

動画で一般質問



川端議員の一般質問は動画サイトyoutubeでご覧いただけます。

空き家の活用について

質問 町の将来を考えると空き家空き地の活用は絶対的な必須事項である、現状と対策の必要性を町長自らが強く訴えられ人口問題（移住定住）に対する成果が出ると考えるが？

町長答弁

言う通りですが、定住だけでは今はやっていけない風潮です。定住はしないけれど町に何らかの関りを持つ2地域居住や何かの時のお手伝い、町のファンになって納税をしていただくような「関係人口」にも重点を置きたいと考えています。

質問 鳥取県作成の「住み継ぎノート」がある。町でも「江府町版家継ぎノート」としてアンケート方式で全戸に配布してはどうか？

町長答弁

提案の趣旨はよくわかりました、方法としては町報や防災無線で問い合わせを促すようにすればと思います。

質問 自らの不動産に対してその価値や将来の処理方法について知らない方や未だ具体的に未検討の方が多いというところが一部の人たちへの聞き取り調査によって浮き彫りになっている、従ってアンケート方式で全戸配布が有効と考えるが？

町長答弁

自分の財産の管理や処分は自分でやるというのが基本であると思います。それが出来ないという方は近所の方や民生委員の方に相談するというのが筋だと思います。

質問 現時点で空き家空き地の問題が一向に進まないのはその相談すら出来ないのと考えてられるが？

町長答弁

近所に相談できる方が居ないというのは、おそらく一人暮らしの方とかそういう方だと思えます。やはり身近な民生委員さんに相談するのが先で、それでも手に余るということであれば役場に相談してください。

水資源の活用について

質問 町では天然水の活用が他町に比べ盛んな状況であると言えます。水を前面に出す事

業や商品を江府町の名でブランディングするのなら、品質と安全性は一番重要と考えますが町長の所見は？

町長答弁

その通りです、例えば私が県に在職中にサントリーさんが西日本50か所の中から江府町を選んだことを見てもとても価値のあることで品質安全共に間違えてはならないと思います。

質問 町長は以前私の一般質問に答えて「旧焼却場の安全性の確認については調査する必要がある」「町の水道水は安全であり安心なので公表する」と答えているが、その調査や周知の方法について伺います。

住民生活課長答弁

杉谷の旧焼却場の件は現在も検討中です。産業建設課長答弁

町内の水道17か所で採水し米子市水道局で水質検査し、いずれも基準値以下ということ

をホームページで報告しています。

小水力発電の導入は？

質問 町では小水力発電の適地を探していたがその後の経過や状況を尋ねます。

総務課長答弁

尾上原、小江尾の2か所で概算事業費を算定しています。連携する事業者があれば取り組みは可能と考えています。

質問 集落内を豊富に流れる水や水道を利用し小水力発電機を設置して、非常用や避難路の照明など、電気の地産地消を提案します。

総務課長答弁

親和性のある提案なので大山自然塾とか、明徳学園などで話してみます、住民の中から「自分たちでやってみよう」ということになれば、そこから支援が始まると思います。

空き家対策資料の一部



● 江府町の将来的な農業行政と集落維持について



森田 哲也

動画で一般質問



森田議員の一般質問は動画サイトyoutubeでご覧いただけます。

令和の米騒動をどう感じ、その対応策の考えは

質問 令和の米騒動は、稲作農家が多い本町には、将来に大きな不安を感じる。この問題で、中山間地農家は議論外であり、しかも、農家の存在が集落維持にいかん重要かという認識がない。「農ある暮らし」は、本町の持続可能な町づくりが必要と思うが伺う。

町長答弁

中山間地農家と大規模農家との違いは認識している。今、私は全国の町村会長会議で経済農業委員会に。この度の報道は、米価下落を重点にしていると感じる。生産者は、収益に結びついていない。適正な

米価は、大変難しい問題と

質問 現農水大臣は、中山間農業は、「直接支払制度の支援水準を嵩上げしていくことが基本」とあった。中山間農業への理解を、全国に向けての発信は、非常に大事だと思う。町長はそれができる立場にあり、行動を起こすべきと考えが伺いたい。

町長答弁

やはり、現場の方から今の実態を国に発信することは重要なことと思う。今の立場を活かして、声を上げていきたい。そして、こちらでも努力・工夫をしているところをアピールしたいと思う。

農業プロジェクトの設立で将来を守る計画を

質問 中山間地域の効率化などは、一職員だけでは困難と思う。総務省によると、全国的にも農業関係職員の数は、25年前に比べて半減しており、将来展望を考えると余裕がないとある。プロジェクトを組織し、総合的な農業政策計画に取り組みたいと思うが伺いたい。

町長答弁

農業問題は、集落維持に繋がると考えている。まず現状の担当で議論し、生活全般は、課長会議で連携議論を深めていきたい。新たなプロジェクト設置は考えていない。

質問

中山間地域の農家は、現状を維持していくことで精一杯と感じる。集落支援には補助金と、さらに補助人が必要と考える。集落等での人材確保は難しい。プロジェクトを設置して、総合的に町民

を支援していくべきと思うが伺いたい。

町長答弁

江府町には、その集落でやり方等考え方が違うと思う。プロジェクトより、行政だけでなく農業委員や農協などと一緒に集落で話し合うのが適していると考えている。

コントラクター事業（農作業受託組織）の設立を

質問 コントラクター事業の設置は、米の安定生産の重要な柱であり、政府もその普及を推し進めているとある。高齢化、担い手不足の中、コントラクター事業の確立を研究するべきと考えるが伺う。

町長答弁

奥大山農業公社が農作業を受託している。今後、そうした事業もやりながら、新たな担い手を受け入れ、公社を拡充させていきたい。改めの組織は、考えていない。



草刈り組織の設立と草刈り作業の助成を

質問 畦畔の草刈りは、離農の一番の原因。専属的な組織の確立を考えるべき。すでに実施している自治体もある。また、農家が草刈り作業を委託した際、一時間で1500円を補助している自治体もある。草刈り作業支援策について伺う。

町長答弁

草刈り作業の大変さは理解できるが、専属的組織を設立しても、他の仕事と併せることが必要。現状で、専属的な組織を作る必要はないと思う。委託補助は、今年度から実施している、草刈り機などの購入補助を継続し、支援したいと考えている。

● 集落の維持と農業の担い手確保について ● 公共施設のトイレ



加藤 邦樹

動画で一般質問



加藤議員の一般質問は動画サイトyoutubeでご覧いただけます。

集落の維持と農業の担い手確保について

質問 江府町内の農業は、地域の担い手と農地管理の両面で着実に縮小傾向が進んでおり、今後の地域運営に深刻な影響を及ぼすことが懸念される。このまま農業が衰退すれば、江府町の農地を守る人がいなくなり、結果として町内の多くの集落が運営や維持そのものができなくなる。農業の衰退は、集落の衰退そのものにつながる。新規就農者や移住・定住者など、新たな担い手を確保するための施策をどのように展開していくのか。

町長答弁

担い手の確保は、農業に限らず喫緊の課題である。従来から進めている集落営農に取り組む集落を増やしていく、一方で新しい担い手を確保するため現在進めている二地域居



農業公社による稲刈り

住で関係人口を増やし、農業への関りへもつなげていきたい。町外のカも借りられるように、ともに理解し合える、協力し合える風土を作りたい。

質問

農業の衰退によって集落維持が困難となるおそれに対して、集落の維持と農業の存続を一体で考える中長期的な方針をどのように描いておられるのか、地域の担い手を支えるために今後どのような具体策を講じていくのか。

町長答弁

2025年農業センサスより江府町農業は20年間で販売農家40%減、現状は商売で農家をしているところは大きく減少し農業が生活の一部になっている家が多くなっていると考えられ、それが集落の維持にもつながっている。そこで、集落営農で集落を盛り上げるのか、農業自体をテコ入れするために外部の力を入れてくるのかを考える必要がある。まず集落で将来像について議論をするのが必要と思う。その後に必要になったら役場に声をかけていただきたい。

24時間使用可能な公共施設のトイレの現状と今後の対応について

質問 本町には現在、24時間使用可能な公共トイレが8か所設置されている。江府町は、環境を大切に

総務課長答弁

トイレは微修繕により利用に耐えうる状況にあると認識している。利用状況は把握していないが一定数の利用はある。施設を維持していく中で必要な修繕は行う。

質問 町内のトイレについて状況を精査して対応してほしい。

町長答弁

一度は点検する必要があると思う。

●コミュニティパーク・防災無線・移住定住支援



前川 文洋

動画で一般質問



前川議員の一般質問は動画サイトyoutubeでご覧いただけます。

パークと財政

建設計画の見直しを求める

①駐車台数・久連橋の狭さへの対策②裏山の土砂災害の危険性への対策は。

教育課長答弁

①園庭への駐車や橋の一方通行など、保護者・職員の協力で対応している。②平常時から情報収集の徹底と避難確保計画・訓練実施で、迅速な判断と園児の安全な体制を確保している。

交流機能について

①住民説明会での意見②様々な地域からの来場者との交流を望む声の有無③年間十

数万人の来場や交流は可能か④建設費の単価が高いがその原因は。

総務課長答弁

①規模や事業費・安全面への懸念の一方、イメージができたという声もあった。②交流を具体的に望む声よりは、安心して遊ばせる施設への要望が強い。施設は「多様性が育む社会性」がコンセプト。③人の力で交流を作る。④他の保育園にないコンセプトや設備が要因。

安全性について

①保育園児童が誤って外へ出ないか②時間・曜日を区切り開放する運営に支障はないか③どのような交通安全対策か④道の駅・江府町役場・

愛ベルこうふの年間来場者数の実績⑤国道に面した児童施設は安全か⑥定員150名か。

総務課長答弁

①一般的なセキュリティは万全を期している。②支障のないよう現場とすり合わせをしている。③右折レーン、信号設置は困難と思われる。パーク入口を専用化して対応。④道の駅は約20万1000人、役場は約7000人、愛ベルは約2万4460人。⑤園舎は直接国道に面しておらず安全は担保できている。⑥新園は定員を下げる。

事業費について

①本町で同程度の建設実績は②施設維持管理費の見込み額③公園・交流部門の運営方法と予算見込み。

総務課長答弁

①令和5年完成の庁舎が約11億円、平成25年完成の日野川校舎が約10億円。②光熱費や点検費などで年間約1

300万円の見込み。③直営予定、予算未定。

質問 財政推計について

財政推計の策定を求める。

町長答弁

計画通りにならないこともあるが、主要な財政計画と言えるようなものを作ってみたい。検討する。

防災行政無線

防災無線の使用の有無について

①防災広報の方法を令和7年9月10日の事例をもとに説明されたい②情報格差への配慮が必要では。

総務課長答弁

①当初は防災無線も予定していたが、県の会議連絡や予報改善傾向を受け、放送は中止しLINEとHPのみと判断した。

町長答弁

②異例な対応をする際はフォローをきっちり行いたい。

移住定住支援

質問 ①『江府町二地域居住促進のための交通費補助金交付要綱』で、Uターン者の除外規定は無くしたほうが良いのでは②空き家の利活用に関する進捗は。

住民生活課長

①元々帰省する人ではなく、新たな関係人口を増やす目的のため線を引いた。今後検討する。②計画に基づき、令和10年度までに移住者向け活用10棟、特定空き家除却10棟などの目標に向け事業実施中。

質問 お試し旅館制度、二地域居住タクシール、デュアルスクール

(中短期通学)、半農半X支援、実家再生・事務手続きサポートチーム、自転車購入補助、県外親睦会支援などを創設してはどうか

町長答弁

予算や仕組みが作れるか検討する。

公共施設建設調査 特別委員会 令和7年11月11日

まちの本屋

事業費4000万円
コンセプト

●江尾駅前のにぎわいを取り戻すため、本屋を中心としたまちづくり。

●安心して日常的に立ち寄ることが出来る空間、それぞれが思い思いにすごせる空間、本を通じて開かれた公共的な空間のある安心できる街のリビング

●学ぶ・食べる・遊ぶを取り入れた。飲食・読書スペース、調理スペース・本屋スペース・2Fのフリースペースと本3000冊の図書機能を持つ

●古民家だが耐震・耐熱・断熱対策は。

●A対策は、これから検討している。

●A利用できる人数は。

●A飲食スペースなどで20人程度

●Aトイレが1個しかないがイベント等で利用者が多いとき困らないか。

●Aその場合は、駅・駐在所のトイレを利用してもらう。

●A2階は、高齢者、身障者が利用しにくく、各スペースに分かれていて世代交流がしにくのでは。



まちの本屋予定地

A2階は、利用しにくい、ここで出来る交流を考えていく。

Q本屋と図書館のように考えているのか。

A借りられる本棚、売る本棚を分けて陳列する。

「コミュニティパーク (保育園らしくない保育園)」

●保育園の老朽化による建替え

●交流の場所

●子どもの健全な社会性を育て成長を支える場所、家族を幸せにし、子どもたちの未来をはぐくむ場所、エンターテイメントが、うまくつながる場所

●保育園と公園を合わせ持つコミュニティパーク

●新たな人の流れを作り多様性が府を成し子どもから大人まで人が集まるまち

●事業費 14億5千万円

●次世代交付金 7億2千5百万円
過疎債 4億円



コミュニティパーク建設予定地

住民懇談会

開催しました

次回は5月頃開催予定です。ふるってご参加ください。

議会では令和7年11月23日に江府町役場2階多目的広場に於て住民懇談会を開催しました。令和7年2月16日に続いて2回目となりました。前回はテーマを議員定数に絞って開催しましたが、今回は「9月定例会の内容をお届けします」としました。6月に議会の改選があり直後には住民の方からも懇談会開催の要望が議会へ寄せられていましたが、議会改革委員会を中心に検討した結果、当日の開催となりました。定例会の後、毎回開催して議会内容をお知らせしてはという意見もありましたが、年2回ということで準備をすることになりました。次回は3月の定例会の後に開催する予定です。質疑については、コミュニティパークや出かける役場、農業についてなど多数の意見や質問がかわされました。また協力いただいたアンケートでは参加者が少ないことや議題を絞る必要性などの意見がありました。今後の参考にしたいと考えています。



熱心に討議する参加者の皆さん

私のひとこと



長谷川 豊

地方神社と

地方自治

米 子市から江府町に移住して10年が経ちました。

高校生の頃には遊び目的で往来、大学在学中に日野クラブ（ソフトテニス）に顔を出すようになり卒業そのまま所属、当



時職場も町内、流れるがままに江府町青年団に町外メンバーとして加わり、洲河崎の女性と結婚、妻の生家の近くでの子育てを求め移住。生活圏内でしたので何の抵抗もなく、良くも悪くも真新しさはなく、地元民面をして当たり前のように暮らしています。移住ではありますが、家業の神職（神社）を兼業しており実家兼社務所がある米子市を行ったり来たりの際の二拠点生活が実際です。本題となりますが、地

方神社と地方自治はかつて地域社会の両輪として機能していましたが「少子化・高齢化・非帰属意識化」という三重苦によってその役割と存続が厳しい状況にあります。家業ですので知らぬ顔は出来ず、かと言って解決案があるはずもなく頭を抱える日々です。生業やコミュニティが地域外にある現代において既存の共同体は通用せず、再設計を要しますが個人が出



来ることではありません。すでに完成している少子高齢社会、多様性という名の下に市民権を得た非帰属意識、変化の過程を示す「く化」という言葉で誤魔化さず現状を直視しなければならぬ。まずは意識から改めて、現状を前提とした神社運営のあり方を模索したいと思っています。



新しい年を迎えてそうそうに、地震が発生しました。西部地震を思い出し心配をしましたが、幸いなことに大きな被害もなく安心いたしました。全国各地でも、地震・火災が多発しています。災害は、いつどこで発生するかわかりません。日頃から防災について考えておくことが必要だと感じました。佐川地区に建設予定のコミュニティパーク、「まちの本屋」を中心とした江尾駅前の活性化事業について、より良いものになるように、住民の皆様のご意見をふまえ議員一同議論を重ねてまいります。また、風力発電建設の動向を注視し、皆様のご期待に添えるよう、より一層努力したいと思っています。本年もよろしく願いいたします。

広報公聴常任委員会

委員長 川端登志一
副委員長 森田 哲也
委員 芦立 喜男
川端 裕

前川 文洋